

釧路・まなざしの和

自転車タクシー運用へ

高齢者対象に公立大生と協働

釧路市の通所サービス「おたつしゃサービス」の担い手として、今年で7年目を迎えたNPO法人「まなざしの和」（美原1、島貫（ずえ理事長））は、釧路公立大学の学生との協働で、高齢者を対象とした送迎サービス・自転車タクシープロジェクト「クシロでシクロ」の運用を目指している。

（石川直樹）

同NPO法人は毎週土曜日の午前、高齢者の通いの場や不定期で出張型の地域食堂を運営している。美原地区会館を活動拠点にしていたが、美原1で活動していた「あそびのサロンより道」が活動休止となり、同サロンオーナーから「にぎやかなサロンを復活させて

ほしい」との言葉を受け、2年前に活動拠点を移した。

自転車タクシーの運用を目指す学生グループとは、主催イベントなどを通して旧知の仲で、学生のアイデアに共感した島貫さんが学生と高齢者を結び付けようと、2月に行ったおたつし

やサービスの場に学生を招待。学生が高齢者に「クシロでシクロ」プロジェクトの説明を行い、三輪自転車タクシー・シクロの特徴や、高齢者の外出機会の促進、若者と関わるきっかけづくりなど、プロジェクトのメリットを訴えた。

学生が考案した同プロジェクトは、昨年12月に開催された「北海道学生研究SCAN合同発表会」で、参加した道内外の大学22チームの中から最優秀賞に選ばれたアイデア。チームの前川莉穂代表は「大学生活もあと1年。何とか運営の足掛かりとして第一歩を踏み出せるよう取り組んでいきたい」。学生から相談を受

けた釧路市福祉部介護高齢課の間鍋莉歌保健師と島貫さんは「おたつしゃサービスの中に、何とか若者が加できないかと模索していたところにこの相談が舞い込んできた。学生の研究成果が実現するよう、支援を示している」。



高齢者に自転車タクシープロジェクト「クシロでシクロ」を説明する釧路公立大学の学生